

穂 学

令和2年度
広州日本人学校 学校便り
[No. 18]
令和2年12月25日(金)
発行責任者 校長 喜屋武浩司

「令和2年を振り返り、新たな年を望む」

保護者の皆様、こんにちは。令和2年ももうすぐ終わろうとしておりますが、今年には本当に激動の年となりました。年の初めから、新型コロナウイルス感染症の拡大により、2月から休校。年度が変わった4月もまだ開校できず、5月11日から、中学部、小学部と順次登校ができるようになりました。

日本への一時避難で帰国した御家族も、入国制限により長い間、広州に戻ることができず、日本の学校に通い始めても、緊急事態宣言で休校措置となってしまったこともありました。それぞれのご家庭で、いろいろと悩まれたことも多かったことでしょう。

そのような状況で、学校においてもこれまでにない様々な課題が出てきましたが、その都度、問題の解決に教職員みんなで知恵を絞り取り組んできました。

まず、休校中の学習ですが、各家庭にメールで課題を配信し、ご家庭で学習したプリントなどをロイロノートに提出していただき、それを添削して返却するようにしました。これは、昨年12月に30台のiPadを購入した際に契約した学習支援アプリ「ロイロノート・スクール」により可能になりました。現在は、写真にあるように90台を追加購入(合計120台)し、各教科で活用を図っています。これからの学校教育では、ICT機器を活用した学習は欠かせません。さらに、コロナ禍における現地学校とのオンライン交流会や、その他の日本人学校や日本の学校とも交流会を実施し、本校が目指す国際社会に生きる児童生徒の育成に力を入れているところです。

コロナ感染対策として、衛生面で徹底した管理が求められる中、外務省の補助によりサーモグラフィーを設置していただきました。また、マスク着用での授業はもちろんのこと、各家庭でも毎日の検温にご協力いただき、これまで一人も感染者を出していないことは本当にうれしく思うと同時に、これからも感染防止に努めていきたいとあらためてに感じているところです。

中国国内の日本人学校では、各地域によって様々な制限があるようですが、本校では、保護者のご協力のもと、運動会や修学旅行、校外学習が実施できていることは、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

令和3年(2021年)は丑年です。「牛」は古くから食牛や乳牛、耕牛と呼ばれ酪農や農業で人々を助けてくれる存在として重要な生き物でした。大変な農業を地道に最後まで手伝ってくれる様子から、丑年は「我慢(耐える)」や「発展の前触れ(芽が出る)」を表す年になると言われています。

もうしばらく我慢が必要かもしれませんが、きっと新しい芽が出て大きな発展につながると信じています。それぞれのご家庭で、素晴らしい年を迎えられることを心より祈念申し上げます。

